

# あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '89 11月号

## 特別展 「平塚の仏像」 記念講演会

特別展「平塚の仏像」を記念して開催された講演会は、去る10月29日の日曜日、跡見学園女子大学教授三山進先生をお招きして実施された。

当日は、130名を超える人々が会場にあふれて、定刻15分前に始めねばならぬほどだった。

講演は、538年仏教公伝以後の仏教美術（仏像に焦点をあて）を概観しながら、平塚の彫刻像の一つ一つを、各時代の特徴を踏まえ、解説していただいた。その中で特に平塚では、まず正福寺阿彌陀如来立像に代表される定朝様を基調とした像が作られ、続いて中原地藏堂の地藏菩薩坐像や、高林寺大日如来坐像の運慶風を強く意識した優れた像が作られた。更に善福寺阿彌陀如来立像のような宋元風の作例が見られること、青柳院の滝見観音のように、鎌倉文化圏の影響を強く受けた作例もあること等に言及された。

近世に入り、平塚の仏像を彫り上げた仏師達は、実は江戸、鎌倉、小田原地域の仏師でもあったことが指摘され、県内各地域の仏師の動向を知る上で、川崎市の事例と比較され、非常に興味深い話になっていた。

講演会は予定時間を大きく越え、熱心な講演会参加者と共に、一応の成功を収めたと実感した次第である。

### ・悟りの仏—如来



### ・慈悲の仏—菩薩



尊像各部の名称

# はじめて出会う仏さま



仏像事典「はじめて出会う仏さま」  
(芦田正次郎著)より、仏像拝見の時の  
心覚えとして、まとめてみました。

## ・悟りの仏—如来

釈迦は、シッタルダ太子の時に城の四門から出  
て老—病—死に接し、沙門(僧)の姿を見て妻子  
を捨て、修行の道に入った。苦行したが、改めて  
菩提樹の下に座してあらゆる邪念と戦い、遂に悟  
りを開いた。その姿は世間の欲を離れた証しに、  
一切の飾りをつけず、衲衣<sup>ノウエ</sup>だけを身にまとっている。  
如来または仏という尊称の仏は、釈迦出家後  
の姿を写したもの。如来または仏とされる仏の数  
は、約70とか。毘盧遮那仏・弥勒・薬師・阿弥  
陀・大日など各如来。



聖(正)観音菩薩  
蓮華の蕾(未開敷蓮華)

## ・慈悲の仏—菩薩

世の人を救わんとの大願を樹て、慈悲の願いを  
持った時の王子としての姿が菩薩。髪を結び上げ  
宝冠をかぶり、身にはきららかな装飾品をつけて  
いる。菩薩とされる仏の数は、約320。文殊・  
普賢・地藏・弥勒・観音・勢至など各菩薩。



不動明王

迦楼羅  
蓮華

慧々座

## ・悪をこらす仏—明王

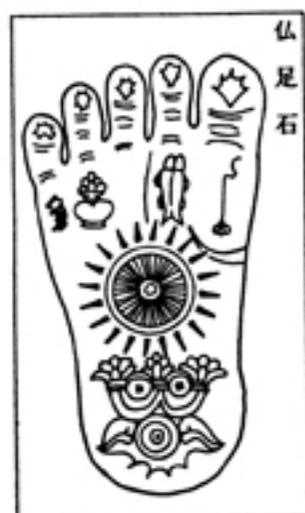
仏像の多くは慈愛に満ちた表情を持つが、激し  
い怒りの表情を示すものもある。この怒りの仏が  
明王である。密教では如来が怒りの姿に変じたの  
を教令輪身とよぶが、毘盧遮那如来が大日如来と  
して現われたその教令輪身が、不動明王だと説か  
れている。すべての災魔を屈服させ、難行苦行に  
立ち向う修行者を守るという信仰が強かった。不  
動・軍荼利・金剛夜叉・大威徳・愛染など各明王。

比叡山で二千日回峰を果した酒井阿闍梨の出発  
点も帰着地も比叡山中の無動寺明王堂であり、不  
動明王の灯明の火を提灯に移して、酒井阿闍梨は、  
深夜の回峰行を続けた由である。



• 地蔵菩薩

安らかに物事を忍んで動かない意を「地」、静かに思いをめぐらし深く秘めるところを「蔵」、あわせて地蔵と言う。苦しみから救う仏。古くは安寿・寿子王が焼きごてで焼かれた時、その傷が地蔵にうつった話、最近では水子供養に造立され交通事故で人が亡くなった所にたてられる。私どもに一番身近かな仏さまではなからうか。



• 仏足石

インドで仏教初期に、釈迦があまりにも偉大であったため、お姿をあらわすのをはばかって、樹木や輪宝・梯子や何重かの傘などで、その存在を示した。梯子は釈迦が忉利天から天降ったことを暗示し、日本の五重の塔の相輪は、かつて貴人の上にかざした傘の変形であろうか。

仏足石もその1つ。仏の足の裏を石に彫って、そこに仏の立ち姿を想像させたのか。あるいは、仏足跡とも表記されるように、仏の足跡を彫ることによって、その地に仏が来て歩いた、つまり「その地が極楽となる」との信仰が生まれたことを、この文字は示しているのかも知れぬ。

仏教がひろまり、西北インドのガンダーラ地方(パキスタン北部)に及んだ時、そこはすでにギリシャ・ローマ美術の影響を受けていたため、ギリシャ神像的な仏陀像が仏伝図に登場し、やがて独立像が生れるに至った。西歴120~130年といわれている。しかし仏像はインド北部マトウラー(首都デリー南方の宗教都市)で生まれたという説もある。この地の仏陀像が、きわめて薄い布を偏袒右肩に着ている形であることも考証の1つだが、こっちの方は1世紀後期~2世紀前期の頃であったとしている。こうして仏教とともに、造像の信仰が伝わると、各地域に特色ある仏像が創られていったのである。(和田)

# 北極星が変わる



11～12月のプラネタリウムの話題は、「歳差」という現象です。



↑ 北天の星の動き  
(中央の濃い星が北極星)

### ○古代中国の「帝星」

北の空の星の動きは、北極星を中心に回転するように見えます。むかしの中国では、星空の世界も、人間界の秩序も、同じ原理によって保たれているものと見て、天体の中枢をなす星を天帝の星、つまり帝星と呼びました。前漢の時代に司馬遷によって編さんされた「史記・天官書」では「天極星」と呼び、北極神太一の常居であると書いています。ところがこれらは今のこぐま座β星（コカブ）にあたり、現在の北極星（こぐま座α星）のことではなかったこととなります。

### ○北極星とは

星空が回転して見えるのは地球がコマのように自転するためです。北極星が中心になっているのは、それがちょうど自転の軸の向く先にあるからなのです。そこを天の北極と呼びますが、厳密に言うと北極星も約一度そこからはずれていて、天の北極のまわりをめぐるっています。

### ○自転軸の移動

地球の姿勢はコマと同様に、この回転によって安定しています。ところが、赤道方向にやや偏平な地球に対し、月や太陽等の引力は、23°.4 傾いた自転軸を起こそうとする向きに働きます。その影響で自転軸の向きはわずかずつながら移動します。地球軌道に対する傾きは変わりませんが、コマが首を振るようなかっこうで、およそ 26000年で一回りするように揺れるのです。これを「歳差運動」と呼んでいます。軸は現在北極星の方を指していますが、千年、二千年もすれば、別の方を向くわけです。

### ○2000年前の天の北極

そこで最初の話に戻ると、2000～3000年前、つまり中国の漢の時代には、地球の自転軸は今の北極星よりも、コカブの近くに向いていて、こちらがむしろ星たちの動きの中枢となっていたのです。時代がくたって「晋書・天文志」では、北極星座の別の星を「天の枢」としており、極の移動がすでに知られていたことがうかがえます。



### ○現在・未来の北極星

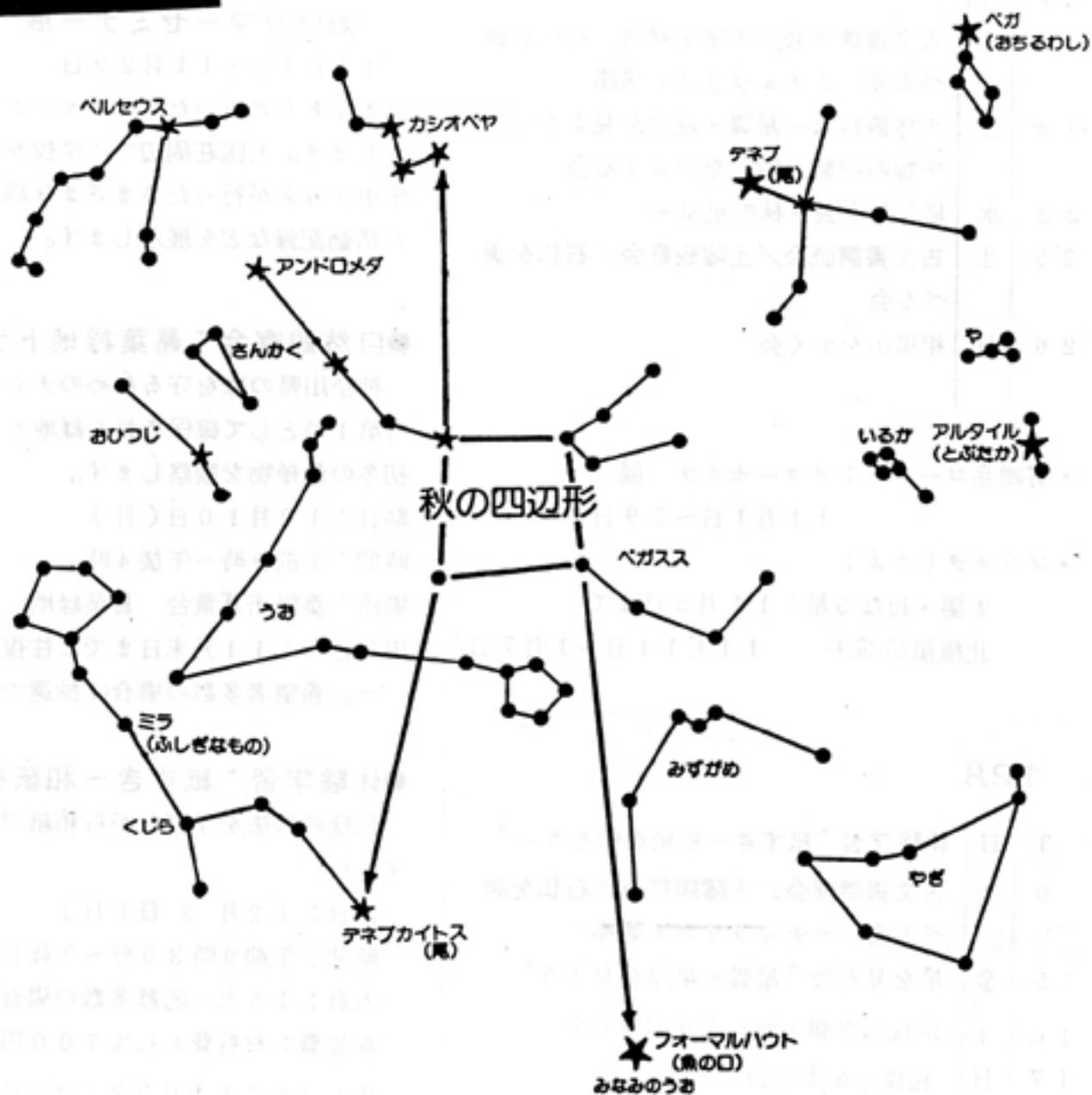
現在、天の北極は、わずかずつ北極星に近づいています。2103年頃には、現在の半分以下まで近づきます。その後またこの星から離れ、2500年くらい後には、ケフェウス座のγ星、6000年後には同じくα星が、そして8000年後にははくちょう座のデネブが北の方角を私たちに示す星になるでしょう。（沢村）

### ← 天の北極の移動経路

(円周上を移動します。ひとメモリが千年)



# 秋の星座のさがし方



## 利用案内

● 投影開始時刻(各10分前に開場します。)

曜日	1回目	2回目
火曜日	学校専用	
水・木曜日	学校・団体専用	
土曜日	団体専用	14:00
日曜日	11:00	14:00
夏休み中等の水木土曜日	11:00 (団体予約優先)	14:00

- 観覧券 1人 100円 当日9時より発売
- 所要時間 1回 45分
- 定員 86人
- 団体利用 20人以上の団体につき団体専用日にご利用いただくことができます。10日前までにご予約下さい。くわしくは博物館管理係まで。
- 乳幼児の観覧はご遠慮下さい。
- 休館日 月曜日、祝祭日、月末、年末、年始

## \*\*\* 行事案内 \*\*\*

### 11月

11	土	古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会／ナチュラリスト講座
18	土	天体観察会－星雲・星団を見よう－ 平塚の空襲と戦災を記録する会
22	水	星を見る会－秋の星座－
25	土	古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会
26	日	相模川を歩く会

・寄贈品コーナー：サマーセミナー展  
11月1日～29日

・プラネタリウム：  
太陽・母なる星：11月5日まで  
北極星が変わる：11月11日～1月7日

### 12月

3	日	体験学習「紙すき－和紙を作ろう－」
9	土	古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会／ナチュラリスト講座
15	金	星を見る会「星雲と星団を見よう」
16	土	平塚の空襲と戦災を記録する会
17	日	相模川を歩く会
23	土	土曜観察会「自然の新聞作り」／石仏を調べる会 古文書講読会
24	日	体験学習「おかしり作り」
26	火	天体観察会 スター・ウォッチング

・寄贈品コーナー：「島憲一氏生態写真遺作展」  
12月1日～12月27日

### ●11月寄贈品コーナー '89サマーセミナー展

11月1日～11月29日

本年8月に行ったサマーセミナーのようすを紹介しします。七国荘周辺で小学校5年生～中学校3年生36名が行ったさまざまな調査・観察の成果と活動記録などを展示します。

### ●自然観察会「葛葉緑地トラストの森」

神奈川県緑を守るためのナショナルトラストの第1号として確保された緑地とその周辺を訪ね、初冬の動植物を観察します。

期日：12月10日(日)

時間：午前9時～午後4時

場所：秦野市葛葉台 葛葉緑地

申し込み：11月末日までに往復ハガキで博物館へ。希望者多数の場合は抽選で30名。

### ●体験学習「紙すき－和紙を作ろう－」

伝統の技法を学びながら和紙づくりにいどみます。

期日：12月3日(日)

時間：午前9時30分～午後3時

人員：15名(応募多数の場合は抽選)

参加費：材料費として700円を徴収します。

申し込み：11月22日までに往復ハガキで。

### ●体験学習「おかしり作り」

一文飾り、ゴボウジメ、玄関飾りなど正月のおかしり作りを学びます。

期日：12月24日(日) 9時30分～15時

定員：30名

申し込み：往復ハガキで

〆切：12月15日